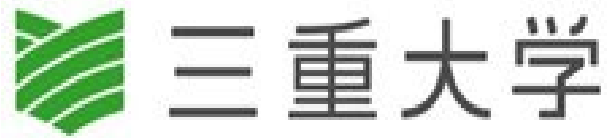


記者発表



医療の未来を、 デジタルの力で 実装する。

三重大学「デジタルヘルス専攻」新設

<本件に関するお問い合わせ>

三重大学医学・病院管理部学務課大学院担当

☎ : 059-231-5287

✉ : g-daigakuin@med.mie-u.ac.jp

デジタルヘルス専攻設置の背景

日本の医療システムが直面する3つの限界



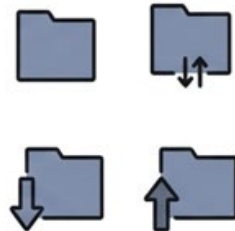
医療現場の
人手不足と過労

医療の高度化が進む一方で、対応するスタッフの負担は限界に達しています。



深刻な
地域医療格差

医師が都市部に偏在し、地方における持続可能な医療提供が困難になっています。



現場で機能しない
デジタル化

国が「医療DX」を推進する一方で、実際の医療現場へのシステム実装が全く追いついていません。

根柢にある「現場」と「開発」のすれ違い

「今のシステムは使いにくいが、どう改善していいか、技術者にうまく伝えられない…」

「最新技術でシステムを作ったが、実際の病院の業務フローに合わず使ってもらえない…」



開発コストの高騰

期間の延長

「現場で使われない」
システムの量産

現場ニーズとデジタル技術を橋渡しできる人材の育成が急務

三重大学における 医療DX等の実績

地域医療の質を向上させるDXと連携体制の具体的成果

三重大学は、県内全域をカバーする高度な医療ネットワークと産学官連携による先進的なシステム開発・研究を行っています。



ネットワークとシステム開発の実績



県内全域を結ぶ高速医療画像ネットワークを独自開発

三重県内の医療機関を繋ぎ、迅速な情報共有を可能にするインフラを構築

クラウドネイティブな次世代紹介・逆紹介システム

地元企業と共同開発し、CT・MRI画像等の転送に対応

地域医療連携と救急体制の強化



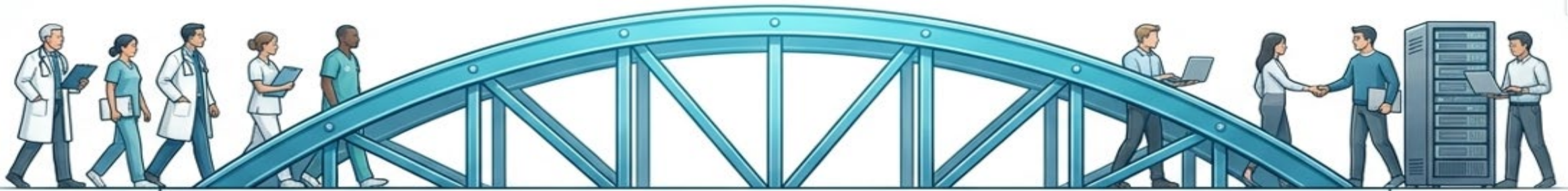
救急遠隔医療連携システムの開発・運営

地元企業や県内全域の医療機関と協力した救急現場のサポート

「みえの未来医療会議」等の医療連携プラットフォーム形成

県内全体へ質の高い医療を提供するための協力体制を構築

課題解決への架け橋：「医療」と「工学」の融合



デジタルヘルス専攻

学位名称：修士（医工学）/ Master of Digital Health

医学系研究科×工学研究科

募集定員：10名

〈デジタルヘルス専攻が養成する3つの人材像〉

1. 現場ニーズの理解能力



医療現場のニーズを的確に把握・理解し、デジタル技術を効果的に活用したソリューションを提案できる能力

2. 法令・倫理の順守能力



医療データの取扱いやプライバシーに関する法規制の知識と高い倫理観

3. 多職種連携の推進能力



医療機関や地域社会と協力し、多職種連携を通じて医療現場でデジタル技術の導入と活用を推進する能力

教育特色①：日本初 世界水準の「MDH」学位と国際連携

我が国で初めてMaster of Digital Health(MDH)を取得できる大学院。
日本で唯一の署名機関としてMDH
アライアンスの国際宣言に参画

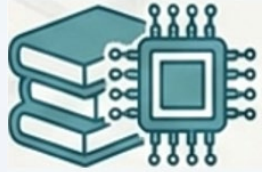
三重大学

北欧の先進大学との教育連携

- ・ オウル大学（フィンランド）
- ・ タリン工科大学（エストニア）
- ・ オールボー大学（デンマーク）

海外からの講師の招聘や教育交流により、常に最新の国際標準を取り入れたカリキュラムを維持

教育特色②：医療現場と直結した実践的アプローチ



基礎的学び

- AI、IoT、データ解析など最新の工学技術。
- 医療倫理、法令、病院情報システムの基礎。



PBL

(Problem-Based Learning)

- 企業や医療現場からのゲスト講師を招聘。
- 現場のリアルな課題に対しグループワークで解決策を立案する演習。



OPT

(On the Project Training)

- 地域医療機関や企業と連携し、実際のデジタルプロジェクトに参画。
- 実践的学習により、実務能力とチーム協働力を鍛える。



教育特色③：医療と工学を融合した分野横断型学習

工学系のバックグラウンドを持つ学生

【出発点】

情報・工学系学部卒、情報系企業・医療関係企業の企画職・開発者など



【重点学習】

「医学系選択科目」を重点的に履修し、医療の基礎的知識の修得と課題の把握



【将来像】

医療製品やサービスの設計・開発担当者、医療現場システムのデザイナー、医療機関向けコンサルタントなど。

医療系のバックグラウンドを持つ学生

【出発点】

医師、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士など



【重点学習】

「工学選択科目」を重点的に履修し、データ分析やデジタル技術・情報工学の基盤知識を修得



【将来像】

デジタルヘルスコーディネーターや地域医療DX推進と教育支援担当

医工連携を基盤とした分野横断型の履修カリキュラムを提供

教育特色④：最先端の「医療×デジタル」研究指導



AI×デジタル画像

X線写真やCT、眼底写真等のデジタル画像をAIで解析し、疾患の予後予測や全身疾患リスクの予測を行う研究。



ロボティクス×遠隔手術

AIやデジタルクローン技術を活用し、精密な手術のトレーニングアプリや遠隔手術技術の開発について研究。



アプリ×がん治療支援

企業と共同で外来化学療法を受ける患者さんや心不全の患者さんをモニタリングし、症状の悪化を防ぎ、患者のこころとからだをサポートするアプリの開発



通信×地域医療連携

企業と共同研究のもと、生成AIや次世代情報通信基盤の医療応用を研究。地域医療における情報共有をスムーズにするシステム開発の研究。

実際の医療現場や地域の課題を研究テーマとし、その成果を再び現場に還元する

社会人の「学び直し」をサポート

働きながら学ぶ ～仕事と学業の両立～

🕒 標準履修（通常）



標準的な期間で修士号取得を目指す

柔軟に変更可能
→
計画的な学習を支援

🕒 長期履修制度（計画的）



個人の状況に合わせて最長4年まで計画的に履修可能



柔軟な受講スタイル

働きながらも学べるよう、講義は「朝（8：50～）と夜間（18：00～）」を中心に配置。オンデマンドやオンライン受講も交えながら社会人学生が職場や自宅からアクセスしやすい環境を整備



長期履修制度

通常2年の課程を、ライフスタイルや仕事のペースに合わせて「3年」または「4年」に延長して計画的な学びが可能



経済的支援

企業による独自の奨学金制度や、授業料半額・全学免除制度、TA（ティーチング・アシスタント）としての雇用を用意

仕事を離れることなく、現在の専門性に医療または工学の知識を加え、次のキャリアに繋げる専攻

設置スケジュールと入試概要

デジタルヘルス専攻設置時期

令和9年4月1日

募集定員

10名

入試日程

出願期間 : 令和8年9月1日～9月14日

学力検査日 : **令和8年9月26日**

詳細な入試情報・指導教員の研究情報につきましては、デジタルヘルス専攻特設サイトをご覧ください。



「現場を知り、技術で挑み、未来を拓く」人材を育てたい。医療現場とデジタル技術の間に立ち、課題を実際の解決へ繋げる人材を育成し、地域医療、我が国の医療の発展に貢献いたします。